



天を造り出し、
これを引き延べ、
地とその産物を押し広め、
その上の民に息を与え、
この上を歩む者に
霊を授けた創造主は
こう仰せられる。
わたし、主は、
義をもってあなたを召し、
あなたの手を握り、
あなたを見守り、
あなたを民の契約とし、
あなたを民の契約とし、
国々の光とする。

一般財団法人 ジェネシスジャパン 2023年10月15日
ニュースレター 第59号
〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 3652-306-3
電話 029-292-9621 ファックス 03-6862-8340
メール info@genesishjapan.com ホームページ genesishjapan.com

山は上がり、谷は沈みました。
あなたが定めたその場所へと。

詩篇百四篇八節

ノアの箱船 (3) 大洪水の経緯

ジェネシスジャパン会長 宇佐神 実

wiki. エベレスト山 (標高 8,848m)

人の知恵・聖書の知恵

人は誰でも自分の知恵や知識を正しいと思い込みたいものです。しかし自分が信じてきたものとは違う知恵や知識に出会った時、その人の真価が問われるのではないのでしょうか。

科学の世界でも、新しい知恵や知識が受け入れられることで科学は発達してきました。逆に誤った知識に固執する科学者たちが重鎮として居座り続ける時、科学の発達が阻害されます。たとえば今回扱う大陸移動説も、そうした重鎮達によって1960年頃までは失笑されていました。しかし彼らの影響力が消えて初めて受け入れられ

るようになったのです。

私たちも自分の知恵と食い違う聖書の知恵や知識を前にするとき、謙虚になって自分を捨てるか、高慢になって自分を正しいとするかで、真の賢さが問われるのです。

聖書の中に真理が書かれていることは、聖書を信じている人なら誰でも知っているはずですが。常に聖書を正しいとすることに決めておくことが大切です。

創世記7:19-20では、大洪水の時に、天下の最も高い山より水かさが約7.5m(15キュビト)増し加わったと書かれています。すなわち全地球が水没したと教えています。

もしこの世の常識で考えよう

とするなら、「エベレスト山(標高8,848m)が水で覆われるはずがない」とか「もしエベレスト山も覆われたというのならそれほど大量の水はどこに消えたのだろうか」などと疑問がわいてきます。

現代の常識や世の知識を正しいとすると、聖書の記述をそのまま信じられなくなってしまいます。世の知恵も聖書も両方信じたい人は、聖書の言葉を象徴的に解釈することでお茶を濁すのです。

前号で紹介したジョン・ウォルトン(米国ホイートン・カレッジ旧約聖書学教授)は、当時の全世界とはメソポタミア地方を指すと主張することで、ノアの洪水はメソポタミ



ア地方全体を襲った局地的洪水であったと解釈します。こうすることでこの世の知恵と聖書のことばのつじつま合わせができると考えたのです。結果として彼は、進化論的地質学を鵜呑みにし、聖書が語る地質形成の証言を否定し、聖書的地質学に対して思考停止となってしまうのです。

もし彼がこの世の知恵や知識よりも聖書の記述を正しいとして考え始めたなら、前述したような疑問は自ずと氷解し、聖書の記述が正しいと確信できたはずで

す。それでは、聖書の大洪水の記述に基づいて今日の地層や地形がどのように形成されたかを検討していきましょう。

大洪水前の地形

現代は大洪水後の世界です。大洪水前の大陸や山々が現代と同じだったに違いないという先入観をもってしまつと、大洪水の記述をそのまま信じられなくなります。大洪水前の陸地に関して聖書にはこうあります。

神は「天の下の水は一所に集まれ。かわいた所が現われよ。」と仰せられた。するとそのようになった。(創1:9)

この聖書の言葉から、大洪水前はただ一つの超大陸があったと理解できます。その時には、メソポタミア地方も日本列島もありませんでしたが、エデンの園は存在し

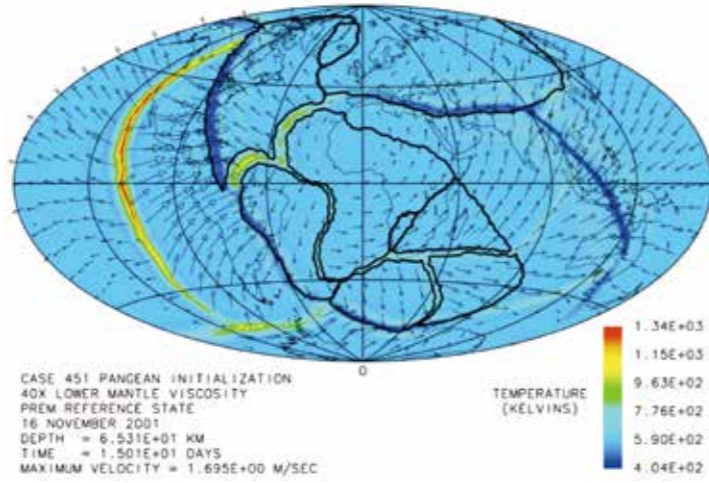
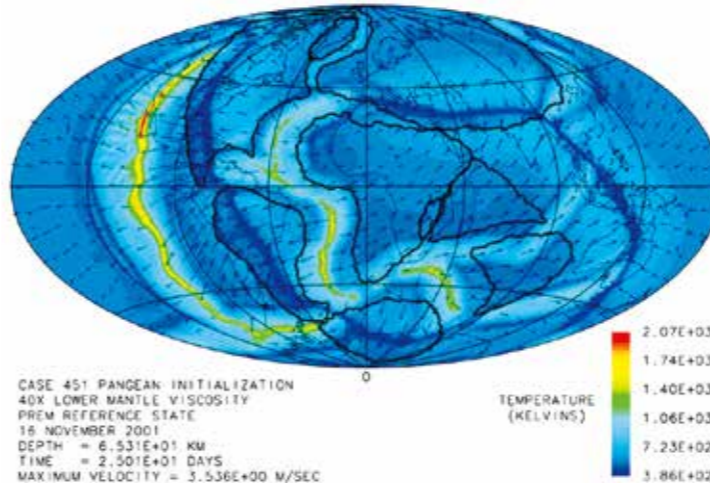


図2. バウムガードナーの開発したコンピュータ・シミュレーション・プログラム「Terra」による大陸移動初期(左)と大陸移動が進行するようす(右)



大洪水の水

ノアの生涯の六百年目の第二の月の十七日、その日に、巨大な大いなる水の源が、ことごとく張り裂け、天の水門が開かれた。そして、大雨は、四十日四十夜、地の上に降った。(創7:11,12)

大洪水の水はどこから来たのでしょうか。「天の水門が開かれた」とあることから大雨が降り始めたことがわかります。しかし多くの人に見過ごされがちなのは、その前に「巨大な大いなる水の源が、ことごとく張り裂け、」と記されている部分です。ニュースレター53号にも書きましたが、この時プレートが張り裂けていくつもに分かれたことが想定されます。

聖書の創造を信じる地球物理学者のジョン・バウムガードナーは、大洪水が始まった時のようすを考察するために、「Terra」と呼ばれるコンピュータ・シミュレーション・プログラムを開発しました。これは現在のプレートの動きも非常によく表せるため、プレートテクトニクスの研究をする多くの科学者にも用いられています。

図2は、プレートが張り裂け最初の大陸パンゲアが分かれて移動していったようすを表しています。濃い青色の方向にベクトル(矢印)が向かっていますが、これは洪水前の海洋底が地球内部へとすべり込んでいることを示しています。逆に黄緑色や黄色の場所からはベクトル(矢印)が離れる方向



図1. ペレグリーニ・スナイダーの描いた大陸移動の図。創造された時は一つの超大陸が創造され、大洪水で大陸移動が起こり、現在の地球の姿となったと考えた。

を指している、これは地球内部のマグマが地表に引き出されている様子を示しています。また、ベクトルの長さの違いはプレートの移動速度の違いを、方向の違いはプレートの移動方向の違いを示しています。²

図3は、米国地質調査(USGS)が作成した岩石圏の様相です。図の地球内部からマグマが噴出している場所(⑥⑬)では、水蒸気が吹き出しています。かつては、マグマや溶岩中の水分が平均4wt%(全体の質量中の水の質量)とされていたが、最新の研究成果では8~20wt%も含まれていることがわかってきました。³ノアの洪水でプレートがことごとく張り裂けたとき、マグマ源からは、想像を絶するような量の水蒸気が噴出したことでしょう。聖書の記述にある40日40夜のどしゃぶりの雨の源はこの水蒸気だと考えられます。

また、大洪水前の冷たく密度の高い海洋底はプレートとともに地球内部に沈み込みますが、このシミュレーションを通してわかったことは、これが急速に起こったということです。急激なプレートの沈み込みが起こると、その摩擦面(図3の⑨⑩⑫)は摩擦熱でドロドロになり液化して摩擦係数が極端に小さくなり、プレート全体が芋づる式に一気に引きずり込まれる(⑦→⑧→⑨→⑩)という

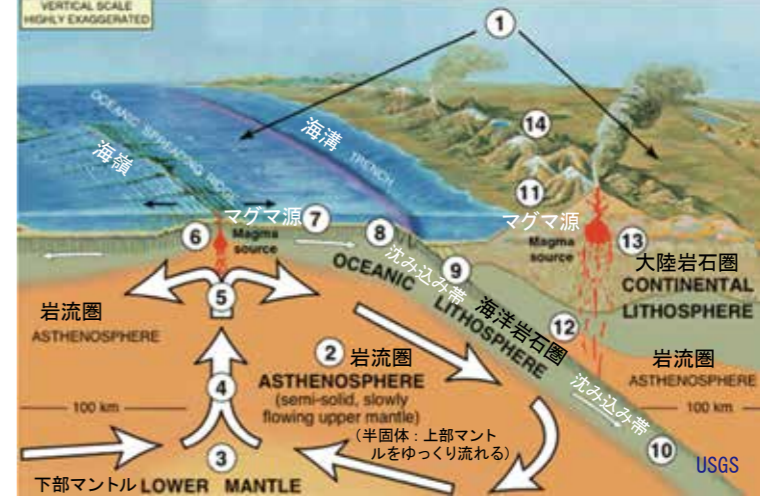


図3. 冷たく高密度の海洋底が沈み込み、マントル内で対流し熱く低密度の新しい海洋底として出現しており、火山や海嶺からは水蒸気が噴出している。

現象が起こったでしょう。しかも、海洋底の堆積層を見ると、大洪水の前半にはこれが繰り返されたと考えられます。

海洋底は比較的新しい

バウムガードナーは、「Terra」によって、大洪水前の海洋底のすべては数週間から数カ月で新しい海洋底に取って替わることを見出しました。海洋底の急速な沈み込みによって図3に見られる岩流圏の対流(⑩③④⑤)が短期間で起こり、新しい海洋底が押し出されたのです。

現在の海洋底の地層に含まれる生物の化石などを調査した結果、地質学者たちは、現代の海洋底には恐竜の化石が発見される地層以降の地層しか存在していないことがわかっています。

このことについてバウムガードナーはこう述べています。「すべての火成海底基盤岩は、地上で恐竜の化石が出土する最下層と同時期以降に形成されている。言い換えるなら、大陸で見られる堆積層のほとんどよりも海洋底の方が後で形成されているということだ。」²

このことは、彼のコンピュータシミュレーションでも裏付けられます。さらに彼はこう述べます。「果たしてこのことは、我々の理解にどのような影響を与えるだろうか。それが示すのは、今日のす

べての海洋底が大洪水の後半以降に出現したということだ。」⁴

海洋底には進化論で古生代とされる地層が存在していません。大洪水の前半にも地上の多くの生物が大洪水に流され、海洋底に埋め込まれたでしょう。

しかし海洋底には、そのような化石が存在していません。これは大洪水の前半に起こった急速なプレートの沈み込みによって海洋底が何度か入れ替わったことを示しているでしょう。その結果、現在の海洋底の地層は中生代とされた地層以降だけが存在するようになったと考えられます。

ですから大洪水の初期に海洋底の地層に埋め込まれた生物は、プレートがマントルの中に沈み込むと同時に燃えて消え失せてしまいい、現在はその痕跡も見ることができません。現在海洋底に見られる地層は、大洪水の水が最も水かさを増す頃以降の地層で、発見される恐竜の化石もこの頃埋められたものなのです。

高い山と低い谷の形成

山は上がり、谷は沈みました。あなたが定めたその場所へと。あなたは境を定め、水がそれを越えないようにされました。水が再び地をおおうことのないようにされました。(詩篇104:8-9)

大洪水の初期は、プレートの動きは水平方向だったと考えられま



す。それは大陸同士がぶつかることがなかったからです。

創世記によると大洪水が始まって最初の150日まで増水し、そこから一転して水が退いていったことが記されています。山々の頂が現れたのが224日目ですから、この頃から山が上がり谷が下がるという出来事が起こったでしょう。

バウムガードナーは、大洪水の後期にはプレートとプレートが時速200km以上で衝突することが起こったと考えています。たとえば、インド亜大陸がユーラシア大陸にそのような速度で衝突すると、隆起や褶曲によって一気に高い山々が出現し、今日のヒマラヤ山脈などができたと考えられます。そしてその中にエベレスト山もあります。エベレスト山の山頂付近に見られる、水中で堆積した地層の中からは海洋生物の化石が発見されます。このことは、ノアの洪水の初期は今のエベレスト山山頂も海の底だったということです。そのほかロッキー山脈、アンデス山脈、アルプス山脈などの高い山々も、聖書に「山が上がり谷が下がった」とある通り、大洪水の終わり近くに陸地を乗せたプレート同士がぶつかることで隆起や褶曲を起こして生じた山々だと

理解できます。

現在の地球のすべての高い山を潰して谷を埋め、でこぼこのないまん丸の地球にすると、地球上の水は2,600-2,700mの深さでその上を覆います。ですから、大洪水前は、最も高い山でもその程度の高さだったということです。

イザヤ書は、やがて再び山が低くされると預言しています。

すべての谷は埋め立てられ、すべての山や丘は低くなる。…すべての者が共にこれを見る。主の御口が語られたからだ。(イザヤ40:4,5)

この世界を創造した方は、全知全能の創造主です。私たちが、この世の知恵や知識に頼って聖書のことばを曲解し否定するなら、偽りを信じることとなります。

かつて山を高くされた方は再び低くすることのできる方です。主の御口が語られることばを通してのみ、私たちは真の歴史を知ることができます。それは、創造主が真実な方で、私たちに偽りを告げることがないからです。

引用文献・参考文献

1. Snider-Pellegrini, A. "La Création et ses mystères dévoilés" 1858. <https://en.wikipedia.org/wiki/Antonio_Snider-Pellegrini>
2. Baumgardner, J. "Global Tectonics and the Flood 1" <<https://www.youtube.com/watch?v=y7HCa6XIY00>>
3. University of Wyoming, "Study explores water content in deep earth volcanic magma" 26-May-2022 <<https://www.newswise.com/articles/study-explores-water-content-in-deep-earth-volcanic-magma>>

4. Creation Magazine Live! "Continental drift and the Bible" [Creation Ministries International](https://creation.com/media-center/youtube/continental-drift-and-the-bible-creation-magazine-live-2-07). <<https://creation.com/media-center/youtube/continental-drift-and-the-bible-creation-magazine-live-2-07>>

5. "THIS DYNAMIC PLANET: A TEACHING COMPANION" USGS p.7 <https://volcanoes.usgs.gov/vsc/file_mgr/file-139/This_Dynamic_Planet-Teaching_Companion_Packet.pdf>

お知らせ

「創造主と共に生きて」

好評発売中

名誉会長

宇佐神 正海自伝

全35ページ

定価250円+税



献金のお願い

国内外に主のみわざを伝えるため、ご支援をお願いします。

ジェネシスジャパン

ゆうびん振替 00350-7-3364

ゆうちょ銀行 10650-52405611

講義・イベント予定

■秋の創造セミナー

日程：2023/11/2～4

会場：ホテルグリーンプラザ上越
新潟県南魚沼市

■創世記の世界を巡るツアー

(創造博物館・ノアの箱船テーマパーク・他)

日程：2023/11/18-23

特別ガイド/ダニー・フォルクナー博士

講師・通訳/宇佐神実

お問い合わせは

ジェネシスジャパンまで

創造を伝える働き人養成講座

【募集要項】

聖書を創造主の言葉と信じる方。

イエス・キリストを救い主と信じる方。

創造を信じる大切さを伝えたいと願う方。

講座の目的と概要

- * 創造主のみわざのすばらしさに感動し、その感動を伝える働き人が起こされる。
- * 創造論の講演に加え、創造論の背景となる知識や考え方を少人数で学ぶ。
- * 創造を伝えるために役立つ資料の提供。
- * 修了証授与（全日程参加者）
- * 創造論を用いての個人伝道、CSや教会でのメッセージ、講演ができるよう協力。

(参加費等はお問い合わせください)

詳細はジェネシスジャパンまで